

令和八年度 京都府公立高等学校入学者選抜

中期選抜学力検査

検査 1

国語

解答上の注意

- 1 「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 問題は、この冊子の中の1〜4ページにあります。
- 3 答案用紙には、**受付番号**を記入しなさい。氏名を書いてはいけません。
- 4 答案用紙の**答の欄**に答えを記入しなさい。採点欄に記入してはいけません。
- 5 答えを記入するときは、それぞれの問題に示してある**【答の番号】**と、答案用紙の**【答の番号】**とが一致するように注意しなさい。
- 6 答えを記号で選ぶときは、答案用紙の**答の欄**の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
- 7 答えを記述するときは、丁寧に書きなさい。
- 8 **字数制限がある場合は、句読点や符号なども一字に数えなさい。**
- 9 答えの書き方について、次の解答例を見て間違いのないようにしなさい。

解答例

一 火曜日の翌日は何曜日か、漢字一字で書け。……………**【1】** 答の番号

二 次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 北と反対の方角として最も適当なもの
のを、次の(ア)〜(ウ)から一つ選べ。
……………**【2】** 答の番号

(ア) 東 (イ) 西 (ウ) 南

(2) 次の(ア)〜(オ)のうち、奇数をすべて選べ。
……………**【3】** 答の番号

(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3
(エ) 4 (オ) 5

二		一	問題番号
(2)	(1)		番号
【3】	【2】	【1】	答の欄
(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ)	ア イ (ウ)	水 曜日	
【3】	【2】	【1】	採点欄

検査					
1					
受付番号					
1	2	3	4	5	6
得点					

このページに問題は印刷されていません

次の文章は、「排蘆小船」の一節で、和歌に関して述べられたものである。注を参考にしてこれを読み、問い(1)～(5)に答えよ。(12点)

この部分は著作権の関係により掲載しておりません。

〔新編日本古典文学全集〕による

注

*本然…本質。

*精しうする…こまやかにする。

*避り…取り除き。

*風雅…風流で上品なこと。

*俗間…俗世間。

*事態…しわざ。

(1) 本文中の **a** の指す内容として最も適当なものを、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。……………答の番号【1】

(ア) 木の皮 (イ) 木の全体

(ウ) 木の根や梢 (エ) 切りそろえた木材

(2) 本文中の **b** に入る最も適当な語を、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。……………答の番号【2】

(ア) 少 (イ) 巧 (ウ) 正 (エ) 粗

(3) 本文中の **b** をすべて現代仮名遣いに直して、平仮名で書け。また、次の (ア)～(エ) のうち、波線部 (~~~~) が現代仮名遣いで書いた場合と同じ書き表し方であるものを一つ選べ。……………答の番号【3】

(ア) いとあはれにて (イ) 向かひて見るに

(ウ) いかにしてふさぎげぞ (エ) くれなるの色

(4) 本文中の **c** 事少なくなる理なり の解釈として最も適当なものを、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。……………答の番号【4】

(ア) 和歌から得られる知識が少なくなることは道理である

(イ) 和歌を詠もうとする人が少なくなることは道理である

(ウ) 和歌に上品さを求めることが少なくなるのは道理である

(エ) 和歌で表現できることが少なくなるのは道理である

(5) 次の会話文は、涼香さんと大紀さんが本文を学習した後、本文について話し合ったもの的一部である。これを読み、後の問い①・②に答えよ。

涼香 本文では和歌に関することが、木をたとえにして述べられていたね。

大紀 そうだね。木を材料として用いて技巧をよりこまやかにしていくときは、**A** である「正味」を得ようとするのが本文からわかるね。

涼香 うん。和歌においては、「**B**」ということが、木を材料として用いることのように述べられていたね。

大紀 うん。また、木から「正味」を得ようとするように、「**B**」行為によって得たものからさらに選び抜き、「整へ詠む」ことで「善き歌」を詠むことができると筆者は考えていることがわかるね。

① 会話文中の **A** に入る最も適当な表現を、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。……………答の番号【5】

(ア) 木から根や梢を断ち、節や割れ目のある所を取り除いたもの

(イ) 木から取り除くべき、根や梢の中でも曲がったもの

(ウ) 木の皮や節を削っていない、そのままの状態のもの

(エ) 木の根や梢を何度も削って、割れ目ができたもの

② 会話文中の **B** に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出して書け。……………答の番号【6】

【裏へつづく】

二 次の文章を読み、問い(1)～(11)に答えよ。(28点)

(1)～(13)は、各段落の番号を示したものである。

1 例えば地方の農村などでこんな話をよく耳にする。ある農村に都会からわざわざ若者がやってきて、田畑や山林に感動して帰るといふ話だ。毎日見ているその村の人たちからするとなんでもないような、当たり前すぎる風景である。だから時間をかけてやってきてそこを眺める理由が村人にはよく理解できない。しかし都会から訪れた人々にとって、そうした風景はあまり見ないものであり、貴重だと言つて評価するのである。そうやって誰かから評価されると、村人たちもまんなざらでもない。それで改めて自分たちの住む場所の価値を見直し始める。そんなきっかけから地域おこしが始まるというストーリーを、ここ最近特によく聞くようになった。

2 村人たちにはその価値が見えなかったのは、同じ場所に対する都会の人と村人とのそれぞれの意識の距離感が異なるからである。毎日その場所にいる村人には、意識の距離がなくなり自分と同化している。だから目には入っていても、それが価値ある風景としては見えないのだ。しかし都会から旅してきた人は、その場所との間に距離がある。それは物理的な距離と同時に、自分たちの日常生活では見かけないという意識の距離でもある。それが風景の条件になるのである。だから何かを風景として眺めるためには、視覚的な距離と同時に心理的な距離が非常に重要である。逆に言えば、この心理的な距離を取ることができれば、実は何でも風景として見るができる。

3 例えば旅へ出かけて知らない場所に行った時、いつもよりも色んなものが目に入つてこないだろうか。それは旅先で初めて目にするものが新鮮であるというだけではない。□□、夜空の星や月などにも目が敏感に向いていたりする。

4 普段は見過ごしているものに目が行くのは、旅に出た時には私たちの意識のモードが普段とは変わっているせいである。旅の道中では、私たちは自分自身に対して意識の距離を保った態度になっており、様々なものが風景として見えるのである。その時のモノの見方を「旅人のまなざし」と私は呼んでいる。

5 私たちは旅に出なくても、日常生活の中で一時的に旅人のまなざしになる瞬間がある。それは何かを眺めている自分自身を、改めて外から引いて眺める時、いわゆる「我にかえる」と呼ばれる時である。その時に私たちは一瞬、素の状態に^c戻る。何かの目的に集中している時には旅人のように眺めることは難しい。特にそこ

で何かの作業や労働をせねばならない時や、何かの利害関係があったりする時は、その目的に沿つて^d物事を眺めるようになるからだ。そうすると意識はその目的に集中し、一体化するので、距離がなくなり全体的な風景が見えなくなる。

7 しかしこれまで持っていた目的がなくなったり、変わったたりすると、急に周りが見えるようになる。一つの区切りがついた時や、何かの目的を手放した時には、目的と意識との間に距離が生まれる。そうすると私たちは、何かを眺めていた自分を改めて発見する。目的と一体化していた自分自身が外から風景として眺められるのである。

8 私たちが見る世界とは部屋の窓から外を眺めるようなものである。窓際^{まじぎわ}に立った私たちは、窓から広がる外の眺めだけを風景と思つている。しかしそもそも外が見えるのは、その窓を開けたからであることを忘れていくことが多い。ここにある窓からは山が見えるが、反対側の窓を開ければ海が見えるかもしれない。上に開ければ星空が見えるだろう。円い窓をつくれれば外は丸く見えるし、色ガラスをはめ込めば赤や青になる。窓の形や窓をつくる方向によって、私たちは違うものを目にする。

9 窓とは私たちのまなざしであり、窓の向こうの世界を切り取ることによって風景を見ている。だからどこにどのような形の窓をつくるのかによって、風景も様々な表情に変化するはずである。そして本来は私たちが世界を見る窓は自分で自由にデザインすることができる。子供の頃は、誰もがそうやって好きな形に窓を切り取つて風景を見ていただろう。

10 しかし私たちは様々な理由で、その心の窓を自由にデザインできなくなつてしまふ。建物に設けられた窓のように、ある方向に固定してしまうのだ。そしてその窓から外をずっと眺めていると、窓の外だけにまなざしが向き、窓を動かすことを忘れてしまふ。長い間その窓を動かすことを忘れていると、窓は動かずに錆びついてしまふ。こういう状態がまなざしの固定化である。

11 窓が固定されて動かないと、眺めに変化をもたらすものは窓枠に入ってくるものだけになる。だから窓枠の中の世界だけが問題になり、それについて良いとか悪いとかの評価をし始める。中の景色が気に入らなければ変わることを願い、気に入っていけば変わってほしくないと願う。窓そのもののあり方については考えなくなるのだ。

12 もしくはその反対に、窓の中に入つてこないものは、まるで問題にはならなくなる。窓の向こうに広がる景色に問題がなければ、窓を動かす必要^hも感じな

くなる。ずっと見たい方向にだけ窓を開けていると、その外側で起こることはそのうち目が届かなくなる。だから、窓が開いてない方向で実はとんでもない問題が起こっていてもそれには気づきにくいのである。死角で起こった問題は、それが窓枠の中に入る事態になるまで目が届かない。私たちは窓越しにしか外を眺めることができないので、窓を固定してしまえば世界がとも限定されてしまう。

13 私たちは普段、自分の風景に窓枠がはめられていてとは思っていない。だから窓枠と同化しており、たとえ窓枠が動いたとしても窓枠の存在に気づかないことが多い。それはちょうどメガネをかけて何かを見ている時に、メガネの存在を忘れるのと同じような状態だ。メガネが曇っていると、世界が曇って見えるが、その時にいくら周りを掃除しても曇りは取れない。いったんメガネを外して距離を取って、自分のメガネが汚れていないかどうかを確認する必要がある。

(ハナムラチカヒロ「まなざしのデザイン」による……一部表記の変更がある)

(1) 本文中の ま ん ざ ら で も な い の意味として最も適当なものを、次のI群 (ア)〜(エ) から一つ選べ。また、本文中の モ ー ド の意味として最も適当なものを、後のII群 (カ)〜(ケ) から一つ選べ。……………【7】

- | | | |
|-----|---------------|------------------|
| I群 | (ア) やむを得ない | (イ) 必ずしも嫌なわけではない |
| | (ウ) 何のためらいもない | (エ) 一言も反論できない |
| II群 | (カ) 接続 | (キ) 領域 |
| | (ク) 兆候 | (ケ) 様式 |

(2) 本文中の 村 人 た ち に は そ の 価 値 が 見 え な か っ た と筆者が述べる理由を説明したものと最も適当なものを、次の (ア)〜(エ) から一つ選べ。……………【8】

- (ア) 都会の人には存在する、ある農村との間の意識の距離が、ある農村の村人にも存在するから。
- (イ) 都会の人には存在しない、ある農村との間の意識の距離が、ある農村の村人にも存在しないから。
- (ウ) 都会の人には存在する、ある農村との間の意識の距離が、ある農村の村人には存在しないから。
- (エ) 都会の人には存在しない、ある農村との間の意識の距離が、ある農村の村人には存在するから。

(3) 本文中の □ に入る最も適当な表現を、次の (ア)〜(エ) から一つ選べ。……………【9】

- (ア) 自分の住む町でも見るような信号機の形
- (イ) 地元のものとは異なるデザインのマンホール
- (ウ) 見かける度に見入ってしまう自動車のエンブレム
- (エ) 旅先の地に昔から生えている巨木の枝ぶり

(4) 本文中の 沿 っ て の漢字の部分の読みを平仮名で書け。……………【10】

(5) 次の文章は、本文中の 好 き な の「好」という漢字の成り立ちに関して述べたものである。文章中の X・Y に入る最も適当な語を、X は後のI群 (ア)〜(エ) から、Y はII群 (カ)〜(ケ) から、それぞれ一つずつ選べ。……………【11】

すでにある二つ以上の字を組み合わせ、新しい意味を表す漢字は X 文字に分類される。「好」という漢字は、「Y」と同じく、一般的にこの X 文字に分類される。

- | | | | | |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| I群 | (ア) 指事 | (イ) 象形 | (ウ) 会意 | (エ) 形声 |
| II群 | (カ) 課 | (キ) 林 | (ク) 末 | (ケ) 馬 |

(6) 本文中の ある 方 向 に は、どのような品詞の語で組み立てられているか、用いられている単語の品詞を、次の (ア)〜(オ) からすべて選べ。……………【12】

- (ア) 名詞 (イ) 連体詞 (ウ) 動詞 (エ) 助詞 (オ) 助動詞

(7) 次の文は、本文中の「まなざし」の固定化 に関して述べたものの一部である。文中の [] に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出して書け。

「まなざしの固定化」という状態になると、例えばどの方向に窓があるかなどの [] ではなく、窓枠の中の世界についてばかり考えるようになる。

答の番号【13】

(8) 本文中の「必要せい」の片仮名の部分を漢字に直し、楷書で書け。

答の番号【14】

(9) 本文中の「られ」と同じ意味・用法で「られ」が用いられているものを、次の「ア」～「オ」からすべて選べ。

答の番号【15】

(ア) 今から急いで会場へ行けば、決勝戦が見られます。

(イ) 校長先生から伝えられた注意点を思い出した。

(ウ) この実は苦くて、とても食べられたいものではない。

(エ) 先輩が持っている手帳に、予定が書き加えられていく。

(オ) 教授も、使い慣れない実験器具には苦労させられたそうです。

(10) 本文における段落どうしの関係を説明した文として最も適当なものを、次の「ア」～「エ」から一つ選べ。

答の番号【16】

(ア) [2] 段落では、[1] 段落で述べた内容について考察を述べ、主張につなげている。

(イ) [7] 段落では、[5]・[6] 段落で述べた内容の具体例を挙げることで、主張を補強している。

(ウ) [10] 段落では、[8]・[9] 段落で述べた主張の根拠を示したうえで、新たな問題について言及している。

(エ) [12] 段落では、[11] 段落で述べた内容を否定する立場から主張を述べ、論を発展させている。

(11) 静香さんと陽一さんのクラスでは、本文を学習した後、本文の内容を要約することになった。下段の会話文は、静香さんと陽一さんが話し合ったものの一部である。これを読み、下段の問い①～④に答えよ。

静香 筆者は、旅をしている時のモノの見方を、「旅人のまなざし」と呼んでいるよ。

陽一 うん。日常生活の中であっても、「旅人のまなざし」になる瞬間はあるとも述べられているね。

静香 何かの目的に集中している時は旅人のように眺めることは難しいんだね。一方で、外から風景として [A] を眺めることができた瞬間は、「旅人のまなざし」になっているというところが本文から読み取れるよ。

陽一 そうだね。また、[8] 段落に「窓から広がる外の眺めだけを風景と

思っている」とあるけれど、窓から広がる外の眺めだけを風景と思うのは [B] からだとということが、本文から読み取れるね。

静香 うん。そして本文において、「メガネ」は、「窓枠」と同じく、[C] ものであるために存在を忘れてしまうことがあるものの例として挙げられているね。

陽一 なるほど。さて、本文の要点を明確にするために、要約しよう。

① 会話文中の [A] に入る最も適当な表現を、本文中から十四字で抜き出し、初めと終わりの三字を書け。 答の番号【17】

② 会話文中の [B] に入る最も適当な表現を、次の「ア」～「エ」から一つ選べ。 答の番号【18】

(ア) 風景を見るためには窓を開けなければならないと思込込んでいる

(イ) 風景について、良いか悪いかの評価を、自分だけの基準で下している

(ウ) 外の世界のうち、ある部分を切り取ったものを風景として見ている

(エ) 風景が様々に変化する様子を想像するだけで、満足してしまっている

③ 会話文中の [C] に入る最も適当な表現を、本文中から九字で抜き出して書け。 答の番号【19】

④ 説明文を要約するときの一般的な注意点として適当でないものを、次の「ア」～「エ」から一つ選べ。 答の番号【20】

(ア) 説明文の全体を見通してから取りかかるとよい。

(イ) 説明文中にある接続する語句を手がかりにし、必要な情報を探すとよい。

(ウ) 目指す要約文の分量に即して、説明文をどのくらい削るか決めるとよい。

(エ) 説明文中の、具体例や補足的な内容を中心にまとめるとよい。

検査1 国語答案用紙

二														一					問題番号	
(11)				(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)		(4)	(3)	(2)		(1)
㊤	㊥	㊦	㊧											㊨	㊩					
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	番号の
ア		ア		ア	ア	必要		ア	I ア イ ウ エ		ア	ア	I ア イ ウ エ		ア	ア		ア	ア	答
イ		イ		イ	イ			イ	II カ キ ク ケ	っ	イ	イ	II カ キ ク ケ		イ	イ		イ	イ	の
ウ		ウ		ウ	ウ			ウ		て	ウ	ウ			ウ	ウ		ウ	ウ	欄
エ		エ		エ	エ			エ			エ	エ			エ	エ		エ	エ	
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	採点欄

検 査
1
受 付 番 号
得 点

検査1 国語 正答表

二														一						問題番号	
(11)				(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)		(4)	(3)	(2)	(1)		
㊤	㊥	㊦	㊧											㊨	㊩						
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	答の番号	
㊦	自分と同化している	㊧	目的とく分自身	㊦	㊩ ㊦ ㊦	必要性	窓そのもののあり方	㊦ ㊩	I ウ II キ	そ っ て	㊦	㊧	I ㊩ II ケ	詞を選びて狭くする	㊦	㊦	わきまえず	㊩	㊩	㊩	
【20】	【19】	【18】	【17】	【16】	【15】	【14】	【13】	【12】	【11】	【10】	【9】	【8】	【7】	【6】	【5】	【4】	【3】	【2】	【1】	備考欄	
					完全解答			完全解答	(各2 各1)	2	2	2	2	2	2	2	(各2 各1)	2	2	2	配点
2	2	2	2	2	2	2	2	2	(各2 各1)	2	2	2	2	2	2	2	(各2 各1)	2	2	2	

検 査
1
受 付 番 号
得 点